

上田 市道の工事予定箇所の順位と今後継続的に取り組む課題は。

建設課長 交通状況、道路の傷み具合、地区の要望などいろいろな観点から中長期計画を、財政計画に合わせ5年間の年度計画を立てている。用地の確保、また延長400キロを超える舗装打ち換えが課題だが、年間10キロ足らずしかできていない。

上田 通学路の危険箇所は。

学校教育課長 平成24年度各学校から50箇所の改善要望が上がっていて、昨年9月警察、県、市など関係者による合同点検を実施した。

建設課長 カラー舗装を進めつつ、簡易な工事はその都度対応している。点検で指摘された箇所は今後取り組まなければならない。

上田 通学路は老若男女を問わず市民が通る道路でもある。整備はもちろんだが、自動車を運転する側の問題も多い。

副市長 交通の問題は、環境から安全教育まで幅広いが、今後とも関係者同士で連携していきたい。



自転車も通れる歩道

市長 子どもたちの安全のためには時間帯規制や一方通行、進入禁止等にすべき箇所もある。通学路の見直しと共に働きかけをしたい。

上田 重点区域土地利用計画書にある「サイクルタウン構想」について。

まちづくり戦略室長 交通上の安全性確保、財源調整も必要になるので現在具体的な計画はない。

上田 自転車も乗せられる菊池電車もあるのでは、合志市のPRに結び付けてはどうか。自治会への加入状況と意見交換について伺う。

総務課長 それぞれの地区に応じた支援活動を行ってきたい。

上田 「現金」も大事だが、病気でも障がいがあっても、合志市民一人ひとりの「元氣」がもっと大切というまちづくりを目指したい。

通学路は子どもだけが利用するとは限らない

上田 欣也 議員



神田 「今後の小中学校における児童生徒数の推移について」開発等に伴う児童生徒数の推計資料」で平成30年、平成36年までの予測を出されているが、どこがピークなのか。

教育部長 ピークについては、住民基本台帳における未就学児童の推移と併せ、開発の動向を見ながら出す必要がある。合志南小学校、南ヶ丘小学校、西合志南小学校区はまだまだ人口が住民基本台帳の状況だけでも伸びるの予測ができる。ここしばらくは、児童生徒数は増加していくと予測を立てている。ピークをいつにするかは難しい。

神田 3月1日現在の人口でも0歳が662人、15歳が561人で100人以上も多い。一番人口の多い年齢は3歳児。3歳児が中学校3年生になるのは12年後ということになる。合志市南部地域の開発計画による区画が埋まったとして1,319世帯×1.6人(1世帯当たりの15歳までの人口)11,211人。これにアパート建設などを入れるとさらに上回る。この数字

なぜ小中学校の新設を検討しないのか

神田 公司 議員



字の中で7割弱が未就学児、3割弱が小学生、若干数が中学生であり、15年〜20年先を見通し新設の検討に入るべきだ。

教育部長 校舎敷地内に敷地があるので、今後の対策として学校の分離新設、校区の見直しは行わずに、増築によって対処していきたい。新設をどうして考えないのかということだが、児童生徒数の予測を立てて、増築でいけるという予測の中で方向性を出した。今ここで新設となると、どうしても学校校区の分離というものも併せて考えなくてはならない。これによる市民の「無用な心配・混乱」は起こすべきではない。

神田 合志南小、南ヶ丘小、西合志東小、西合志南小が予想では、平成30年に921人、823人、1,110人、881人、合志中、西合志南中とも1,000人に近くなる。教育委員会として「適正規模」の観点から今の学校の状況が良い状況なのかどうか、検討しなくていいのか、「無用な心配」とは論外だ。

議会運営委員会

2月12〜13日 山口県美祢市・山陽小野田市



美祢市

2月12日 山口県美祢市
2月13日 山口県山陽小野田市
・会派制について
・議会報告会について

議会運営委員会は、平成25年度2月12日山口県美祢市議会、13日山口県山陽小野田市議会において、山口県山陽小野田市議会の視察研修を行ないました。

両市議会ともに会派制を取り入れてあり、政策提言や一般質問における内容の精査等が必要とのことでした。また、議会報告会においては、美祢市では、年2回3地区にて、山陽小野田市においては、年4回中学校単位で開催されており、班編成で報告がされている。特に簡素化、統一化された。



山陽小野田市

たフォーマットがあり、どの会場で誰が報告しても同一の内容になるよう配慮がなされていました。

合志市市議会として、平成25年度より会派制の導入、及び議会報告会の開催が決定している中で、今回の研修が大きな一歩になったと感じられる研修でした。今回の研修を含め、議員各位、市民の皆様のご意見を賜りながら開かれた議会づくりに向け努力していくことを再確認しました。

議会広報調査特別委員会

2月18〜19日 福岡県太宰府市・佐賀県嬉野市



太宰府市視察

議会広報編集方針等について

2月18日 福岡県太宰府市
太宰府市は、昭和57年に市政施行された市で、面積29.58km²、人口約7万人で、高速道路やJR、西鉄等交通の便も非常に良好な地域で、大学、短大等が8校もあり文教都市として、また古くは九州全体を治めた役所も置かれたり、大宰府天満宮も有名で歴史と活気のある市でした。

広報委員会は各常任委員会から2名と委員長の7名で構成されていました。広報紙が市民にわかりやすく、市民に写真を活用しての紙面作りに努力していました。



嬉野市視察

所感
今回の視察研修では、広報紙が市民にわかりやすく、いかに読んでもらえるか、また発行までを早くするために努力されていることに感心させられました。

広報委員会としても参考になったことを十分検討していきたいと思えます。

2月19日 佐賀県嬉野市
嬉野市は平成18年嬉野市と塩田町が合併し、面積126.51km²、人口約2万9千人で、長崎自動車道や国道34号線等交通の便も良く、古くから長崎街道の宿場町として栄え、嬉野温泉で有名です。お茶や陶磁器等の産業も盛んで住みやすいような地域でした。

広報委員会は8名で構成されており、広報紙が市民にわかりやすく読んでもらえるか、わかりやすくするために、身近な写真や余白を活用する等紙面作りに、また議会閉会後30日で発行するために編集作業を連続して行うなど努力されていました。